

Hello Mathlete !

～数学オリンピックに挑戦しよう～

<概要>

日本数学オリンピック(JMO)および日本ジュニア数学オリンピック(JJMO)は中高生を対象にした数学の大会です。試験は予選(1月)→本選(2月)→代表選考合宿(春合宿)(3月)の3段階あり、代表選考を勝ち残った6名は国際数学オリンピック(IMO)の日本代表になることができます。また、8月の夏季セミナーでは、全国の数学好きの中高生と交流を深めることができます。

5年6組 齋藤 輝

<問題について>

数学オリンピックの問題は代数・組合せ・幾何・整数の4つの分野から出題されます。深い思考力が要求されるため、はじめのうちは難しく感じるかもしれませんが、慣れてしまえば問題の奥にある面白さを感じられるようになると思います。

<対策方法>

予選対策はひたすら過去問を解きましょう。余裕があればOnline Math Contest(OMC)に参加してみるとモチベーションを維持しながら実力を伸ばせると思います。また、分からない問題の解説を読むときは「なぜその式変形をしようとするのか」「その問題の本質は何か」「ほかの問題にどう応用できるか」などを意識してまとめておくと良いと思います。

本選対策でおすすめの参考書・Webサイトを紹介しておきます。

・獲得金メダル 国際数学オリンピック(通称『獲得』)

→4分野それぞれについて、本選以降の問題を解くための考え方がまとまっています。

・数学オリンピック幾何への挑戦:ユークリッド幾何学をめぐる船旅(通称『船旅』)

→幾何の問題の考え方が基礎からまとまっています。これを1冊仕上げれば幾何は完璧です。

・Aditya Khurmi, "Modern Olympiad Number Theory"

→英語ですが、整数問題で必要な知識がすべてまとまっています。

・ご注文は数オリですか?(通称:ごちすう)

→過去の日本代表が問題の考え方や試験のアドバイスなどをまとめているサイトです。

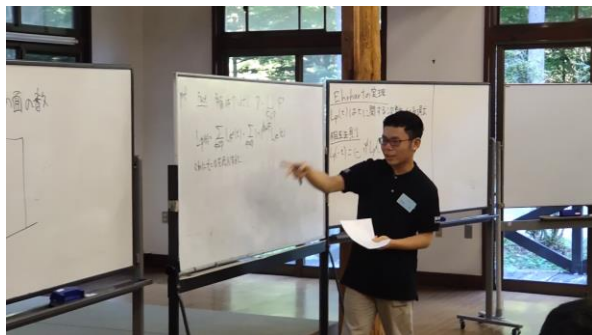
<合宿に参加した感想>

私はこれまで春合宿に1回、夏季セミナーに2回参加しました。初めての春合宿では思うように問題が解けず自分の実力不足を痛感しましたが、来年も来るぞというモチベーションになりました。また、夏季セミナーではゼミを通して数学の知見を広げられたとともに、ボードゲームなどでほかの生徒やチューターと交流を深めることができました。

* 今年度の夏季セミナー参加記 (https://note.com/denta_math/n/n0a2b6912b817)

<数オリを目指す人へ>

数オリは楽しむことが一番大事です。まずは結果にこだわらず、面白いと思った問題から解いていきましょう。そして、その面白さを共有できる仲間を見つけられたらラッキーです。数オリに「これをやれば受かる」とかはないので、自分が一番楽しいやり方で問題に向き合っていればいつか結果はついてくると思います。対策法などで分からないことがあればいつでも聞いてください。応援しています。



▲夏季セミナー (全体発表の時の僕)



▲夏季セミナー (去年の自由発表)

Double Helix ~Ichikawa × Ohyu~

1. 活動時期: 2023.8.21~25

5年11組 余宮 ひかり

2. 参加のきっかけ

昨年度同じDouble Helix系列のDouble Helix -translational medicine- に参加した際、他校の人たちと英語で明確な答えの無いような問題について対話をするというレアで充実した1週間を過ごしたと感じたとともに、もう少し積極的にディスカッションに加わって、プレゼンももっといいものにできたらいいな、などとの後悔したこともあり、今年別のテーマで自分の興味のある分野のDouble Helix(DH)があると知り、応募した。

3. 参加した感想

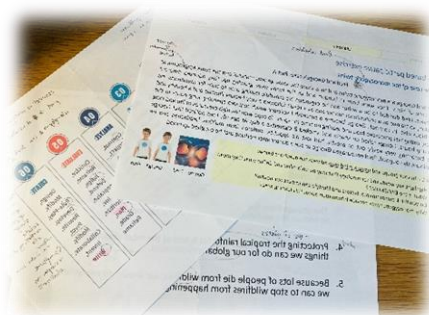
①参加する前と後の変化

昨年度のDHに参加する前は、今振り返ってみると、適当に生きていたなと思う。自分は帰国子女で英語はそれなりに喋れるので、英語力の維持のためにも参加してみようと軽い気持ちでいた。しかしいざ参加してみると、英語力だけでは足りなかった。周りには一つの問題に対して様々な側面からの考えを一瞬でまとめて自分なりのオリジナルな回答を作り上げて、それを即座に英語に直して発表できる頭の回転の速い人たちばかりで、驚愕だった。自分の今まで考えてきたことの浅はかさに気付かされ、自分も将来こんな風な人にならないとなと少し焦りすら感じた。それからゆっくりといろいろな目線でニュース記事をみてみたりなどし、自分のものの考え方を矯正してみようと試みた。

そして今年のDHでは、この矯正の成果を多少感じられた。一つの問題のいろんな答えを見つける力はつき始めているなと感じた。ただ同時に、自分の力不足さも感じた。それはとある問題と別の問題を結びつけてその相互関係を見つける力がないということだった。なので今はいろんな側面を見るだけでなく、とある側面に対して深く、連想ゲームをするように、他の問題に繋がっていないかななどを考えてみようとしている。

②活動中の面白かったポイント

- ディスカッションメインの授業
- 普段の学校の勉強では習わない専門的な知識も
- 5日間の集大成のプレゼンの準備の時の和気藹々とグループで意見交換している時
- 他のグループのプレゼンを見ること
- 昼休みのトランプ大会！



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

めちゃくちゃおすすめです！他校の人たちと意見交換することなんて滅多にないですし、講師の先生方も全員優しく、どんな質問をしても答えてくれます。英語力に自信がなくても、何の心配もいらないと思います。3日目にはもうみんな私と同じくらい発言してます。私の数年間の海外生活はなんだったのか…

トビタテ！留学JAPAN タンザニアで教育ボランティア

1. 活動時期

: 2023. 7/21～8/20

5年9組 直井 ひかり

2. 参加のきっかけ

小さい頃からアフリカに興味があったからです。タンザニアは教育水準の低い国の一つとされています。そんなタンザニアの教育現場には一体なにが必要なのかを探求し、高校生の自分にできる教育支援活動をするためにトビタテ!留学JAPANに応募しました。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

私は留学中何度も悔しい思いをしました。自分の英語力が足りないために他の国の留学生に相手にされなかったり、小学校に初めて行った日には学校の先生に急に足し算の授業をしろと言われ、どうしていいのかわからず何もできなかったことがありました。しかしそんな悔しい思いをするたびに、逆に積極的に外国人の留学生に話しかけに行ったり、夜寝る前に必死で明日の授業のための英語の台本を考えるなど、海外で生活していくための本当の意味での強さを身につけることができました。最初の2週間は精神的に辛かったのですが、最後の1週間では今までの自分では想像できないほどの積極性を身につけ、初対面の留学生にもどんどん話しかけ会話ができるようになりました。

②活動中の面白かったポイント

私の留学は一ヶ月間と短いものでしたが毎日が学びの連続で今までの人生の中で 1番濃い一ヶ月間でした。毎日が刺激的でワクワクするようなことがある一方で、悔しい思いをしたり惨めな思いをすることもたくさんありました。しかし、このような経験も含め、自分の視野も広がり価値観も大きく変えることができ、本当にいい経験だったと思います。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: トビタテの応募資料作成は大変ですが、その分だけ自分の将来について考える良いきっかけになります。どんどんチャレンジしましょう！世界は想像以上です！

HLABサマースクール TOKYO2023

—Unleash the future—

1. 活動時期

:2023.8/14～8/21

5年7組 前田 紗希

House
教育「寮」の再現

HLAB

2. 参加のきっかけ

- ・できるだけ長期間英語漬けになりたい！と思っていたこと
- ・日本全国のみならず世界中の高校生と大学生が集まって一緒に活動するイベントだから

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

私は、英語の文法は苦手でもネイティブとの会話は好きだ、得意だ、と思ってこのサマースクールに参加したのですが、初日に初対面の海外大生と英語で話した時に言いたいことが全然伝わらなくて、本当に悔しい思いをしたのを覚えています。それから自分でも工夫をして最終的に、どの文化圏出身の人であれ、コミュニケーションをとるのに一つの方法にこだわる必要はなく、ジェスチャーでも絵でも色々な言語を混ぜたとしても、理解しあうことに意義がある、と感じました。

また、知り合いが1人もいなかったのも、思っていたよりもずっと「自分のことを説明して理解してもらう」という状況が多かったです。別にそれは英語に限らず、自分が今まで育ってきた環境と180度違う高校生たちが集まる中で、自分自身を自分はどう説明できるのか、というのは自分をより知るという点でもいい経験でした。

②活動中の面白かったポイント

自分が選択したセミナー(大学生が自分の専攻分野を直接教えてくれるもの)が社会運動という結構難しいテーマで焦ったけど、最終的に現代のデモや環境問題についてディスカッションできるまでになったこと

行動班のように日中まとまって活動するハウス、というグループの中で、高校生という条件以外は英語力、出身、学年、何もかもバラバラな私たちが、最終日には別れを惜しんで皆で大泣きするくらい仲良くなったこと。

メンターとして活動していた大学生も一癖も二癖もある人たちばかりで、話を聞くだけで刺激をたくさん受けたこと。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

進路が決まってない、自分には誇れるものは何もないし……って思っている人ほど参加してほしい。英語を使うサマースクールなのはもちろんなのだけけれど、それ以上にこれからの学生生活、社会人になった時まで残る「記憶」「仲間」「目標」ができることだと思います。英語力は不問なので、何でもいいから変わりたい！自分の殻を破りたい！と願う意志を持って飛び込んでみてください。絶対に楽しめると思います！



模擬国連

1. 活動時期

:2023. 6/18、9/10

5年8組 川上 茉理愛

2. 参加のきっかけ

学校から紹介されていて、ちょうど友人と一緒に出ようと声をかけられたので、いい経験になると思って参加しました。その上、社会問題に興味があったのである議題について深く調べ、他校の生徒と議論出来るという点に惹かれました。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

初めは準備の仕方が全く分からず、指定されていた調べないといけないことや浅い政策、戦略だけを練り、軽い気持ちで参加したのですが、1回目の模擬国連の後には自分たちがどれだけ準備不足で知識不足だったのかということを思い知らされ、絶対にリベンジしようと思われました。

2回目の模擬国連の前は十分に準備を行い、私たちは自信が結構ありました。しかし、やはり国数が多く、それぞれの利益に見合った文書を作成するのは難しく、私達の計画通りにはなかなかいかず、と他国と衝突する事が多々ありました。結果的に私達が先進国の中心となって作り上げた文書は全会一致の採択を得ることは出来ませんでした。前回と比べて活躍でき、議論の中心となる事ができたので、達成感を感じることができました。

②活動中の面白かったポイント

議会が始まった瞬間に、模擬国連に何度も参加したことがある人が複数人大声で、「先進国の方々こちらに集まって下さい！」などと言いだしたので初めはその雰囲気圧に圧倒されていました。初めて模擬国連に参加した時は、外交や文書の作成の仕組みなどがよく分かっていなかったのも、他国の代表に助けをもらいながら、自分たちの意見を文書に入れられるように努力し、貢献できるように尽力しました。しかし、やはり経験者の方々がどんどん議を進めて行ってしまったので、積極的に参加するのが困難でした。

なので、2回目の参加では私達が議論を回せるように、自分たちに有利なグループに分けることに成功しました。グループ内での議論は争いが少なかった分、他の国々と意見をする合わせるのがとても大変でしたが、議論すること自体はとても楽しかったです。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

自国の国内情勢、政治体制などはしっかりと理解し、似ている境遇の国々とどのようにしていくか事前に戦略を練っておいた方が良いでしょう。経験者が議論を進めようとするので、恐れずに自分の意見を言い、雰囲気にのまれない事が大切です。

マイナビキャリア甲子園

1. 活動時期

: 2022年11月～2023年3月

5年5組 神林 咲希

2. 参加のきっかけ

以前小松サマースクールに参加した時に出会った友達に誘われ、参加することにしました。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

私は以前からビジネス系のコンテストに興味があったので、初めは良い経験になればいいなという軽い気持ちで参加しました。しかしほぼ毎晩チームのみんなと電話しながらアイデアを練り、喧嘩しながらも納得のいくプランを一から自分たちの手で作り上げることができて、すごく達成感を感じています。

参加する前は、私は人に頼ることが少なかったのですが、この大会に出て、一人で全てを抱え込むのではなく、多少は他人に頼り、彼らの意見も取り入れることでより良いものが作れると知ることができました。また、今回の大会に参加した後、友達や見てくれた方々に「元気をもらえた！すごく発表が上手だったね」と褒めていただき、自分の活動を知ってもらえて、また認めてもらえて、嬉しかったです。

②活動中の面白かったポイント

私たちは忘れ物をなくすためのサービスを提案して審査員特別賞をもらいました。小学生向けですが、ランドセルをリーダーの上に乗せると忘れ物がないかチェックしてくれるというサービスです。私は今回の大会で初めてテレビの取材を受け、実際に出演しました。活動をずっとテレビマンさんに撮られるのはとても緊張したのですが、貴重な体験ができました。

さらに、大会が終わった後なのですが、私のグループが代表した会社であるセコムさんの社用のヘリコプターに乗らせて頂いたり、セコムさんの研究室やデータセンターを見学させて頂いたり、一生に一度あるか無いかの体験をさせて頂きました。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

活動期間が長いので、モチベーションを保つのが大変だと思います。しかし、それで諦めてしまうのはもったいなく、やることは山ほどあって全然時間が足りないと思うので、適度に休憩は挟みながらきちんと定期的に話し合うことが大事だと思います。

また、喧嘩して嫌な雰囲気になるのを恐れずに、どんどん意見を言った方がいいと思います。遠慮しあって、改善点を指摘しないと、自分も納得しないのでストレスが溜まりますし、意見を言い合った方がより良いビジネスになると思います。

ぜひ頑張ってください！



グローバルイシュー探究講座

5年11組 小俣 雄生

1. 活動時期

: 2023.5/6~8/23

2. 参加のきっかけ

神田外語大学との共催で開催場所も大学内だったことから、大学の雰囲気を感じたかったから。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加して変わったことは物事を見る時の見方だと思います。私はこの講座に参加する前は日本がSDGsにおいて世界をリードする先進国のトップ層にいて思っていました。実際の生データと呼ばれる国連の情報を見て自分のイメージとはむしろ逆なんだと気付かされました。その後、生データや大学教授による講義から得た情報が増えるにつれて自分は固定観念で見ていることが多いことに気づき、どんなことも多角的に見るように意識することができるようになったと思います。

②活動中の面白かったポイント

- ・世界の現状を知るために国連が毎年出している統計情報をもとに理解するので、いつもの授業とは違う密度の高い情報量を扱うこと。
- ・2、3人のグループで最初から最後まで一緒に一つの発表を作り上げるので、講座を受ける前には知らなかった人と協力していくにつれて仲良くなっていけること。
- ・ブリティッシュヒルズに行った後は基本英語のみの生活で、いつもと違うコミュニケーションを楽しみながら体感することができること。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

英語が苦手でも、コミュニケーションが苦手でもやる気さえあれば大丈夫です！留学まではいかないけど英語を使ってみたい人、何かに挑戦したい人、グループで何かを成し遂げたい人は特におすすめです！まずは一步を踏み出してみてください！！



トビタテ！留学ジャパン・Boston University Summer Program

1. 活動時期

: 2023.7.22～2023.8.11

5年4組 住田 結佳子

2. 参加のきっかけ:

- 中2の時にトビタテのポスターを見て、高校生になったらチャレンジしてみたいと決めた
- 英語のスキルアップのため、直にアメリカの大学で学んでみたかった
- 自分の夢である医学を世界中の仲間と情報共有したかった

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

プログラムに参加した仲間の医学に対する熱意に驚かされました。それぞれの国では高校生で様々な医療体験や授業を受け、そのような経験により、たくさんの医療知識を蓄えていました。留学をする前に乏しかった自分の知識をこのプログラムを通じて深め、より自分の夢を具体化できたと思います。また、世界中の情報を共有できる友達を作れたことが良かったです。

②活動中の面白かったポイント

- ・世界中の国から同じ目標を持つ生徒と交流ができたこと
- ・医学だけでなく、歯学も学ぶ機会ができたこと
- ・自由時間はどこにでも友達とボストンの街を散策できたこと



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス:

トビタテは、自分のやりたいことをしっかりとアピールしてください。書類、面接は大変ですが、最後まで諦めなければ大丈夫です！
BUSPは、準備書類が多いので早めに準備してください。とても楽しいプログラムなので是非試してみてください。

WWL FOCUS 混ざって、創る。

5年1組 寺田 響希

1. 活動時期

:2022年10月～11月

2. 参加のきっかけ

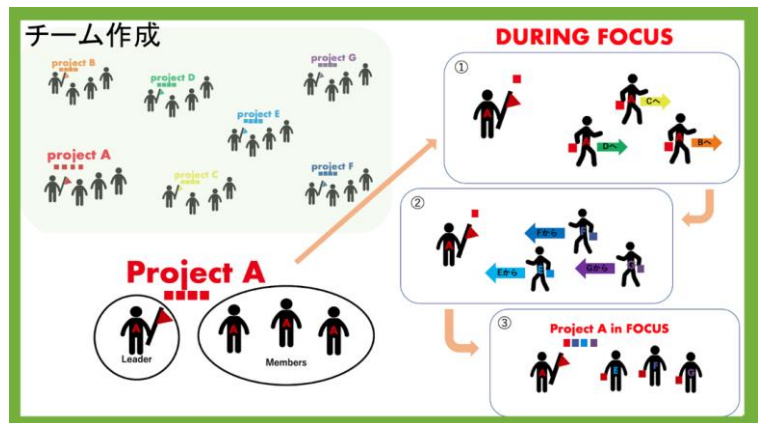
- ・他校の生徒と共同で何かを作りたいと思ったから。
- ・何より京都に行けるから。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

学校内で組んだ2～4人のチームが他校の人と協力してSDGs解決のプロジェクトを行います。また、他校のプロジェクトにも協力しました。この経験でコミュニケーション向上や異なる環境での成長を経て、多角的な視点を得ました。



②活動中の面白かったポイント

他校の生徒と合同のチームで動くので、仲良くなることからスタートします。しかし他校の生徒が積極的に話しかけてくれるので、すぐに仲良くなれます。(みんなでUNOしました笑)



最後に他の参加者の前で発表しますが、ずっとプロジェクトを考えた友との発表は、緊張する分達成感を感じました!!

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

:楽しい、とにかく楽しい。緊張することもあるけど、自分の殻を割って挑戦した先に強くなった自分がいます。どんどんチャレンジして自分をアップデートしよう!!

高校生の海外ボランティア ～フィリピンで公衆衛生～

1. 活動時期

: 2023.8/6～8/19

5年5組 高山 和桜

2. 参加のきっかけ

: 将来貧困地域医療に携わりたいという夢があり、高校生のうちから日本だけでなく、海外でも医療・公衆衛生ボランティアをして、海外医療をもっと間近に感じてみたいとずっと思っていた中でProjects Abroadのこのプログラムを見つけ、参加を決めました。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加する前は貧困地域について漠然としたイメージしか持っていませんでしたが、実際に現地で見た病院内の様子やスラム街、ストリートチルドレンの姿は私の貧困地域への理解を促進してくれました。また、様々な医療行為に関わらせていただき、参加前よりも医療への関心が大いに高まり、将来貧困地域医療に貢献したいという気持ちがより強くなりました。

②活動中の印象に残ったこと

- ・患者の血圧や脈拍測定などを行っている中で、現地の食事や衛生環境の改善すべき点に気づき、公衆衛生の必要性を理解することが出来ました。
- ・病院では、日本では滅多に見ることが出来ない、盲腸の手術や帝王切開、分娩の瞬間などを間近で見ることができ、目に焼き付けることが出来ました。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 高校生のうちから海外で非日常を経験することは何もかもが新鮮で、自分に大きな影響を与えてくれます。Projects Abroadの高校生ボランティアには医療・公衆衛生だけでなく、教育や建築など様々な種類があります。自分の興味がある分野に是非参加してみてください！絶対将来に繋がる貴重な経験になると思います。

Touch the Future

南砺市民病院で地域医療を学ぶ5日間

1. 活動時期

2023.8/12～8/19 @南砺市民病院(富山県)

2. 参加のきっかけ

医学に関する課外活動に参加したいと思っており、医者側の研修医と同じような貴重な体験をさせてもらえるだけでなく、患者さんや地域の人とも交流ができるプログラムだったので、東京では学ぶことのできない地域医療も学ぶことができる点に惹かれたので参加しました。

高校2年 女子生徒



ドクターカー乗車体験の様子

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

今思えば、参加する前までは医者がどんな職業かをよく知らずに「医者になりたい」と思っていたと思います。私の身近には医療職についている人がいないため、私が知っている医者は「優しく診察してくれるかかりつけの医者」と「鮮やかに手術をこなすドラマで見る医者」だけでした。

しかし、この研修で医者とはほぼ同じスケジュールで5日間過ごしたことで、多岐にわたる医者の仕事や医者が患者に見せない姿まで知ることができました。

また、私の目の前で患者さんが苦しそうにしていたり、手術できない状況にいるのを見て、高校生の自分では何もすることができないという不甲斐なさを感じました。しかし、それと同時に「高校生の私でも、患者さんの話し相手になったり、笑顔にすることはできるんだ」という発見もありました。

医者は患者の生死に向きあうハードな職業だけれども、病気を治すだけでなく、人を笑顔にすることができる職業であることを実感し、「早く私も医者になって1人でも多くの人を救いたい！笑顔にしたい！」と強く思いました。



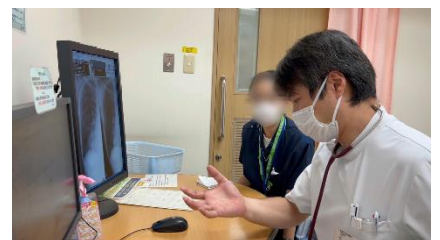
手術見学の様子

②活動中の面白かったポイント

普段できないようなとても貴重な体験をさせて頂きました。

まず、手術見学です。執刀医の先生に術野を目の前で見せて頂きながら、詳しく説明を受けたことは、一生忘れられない体験となりました。

また、多職種の見学や訪問診療にも同行させて頂き、医者だけでなくいろんな職種の方がいるから、私たちは最高の治療を受けて病気を治すことのできるのだなとわかり、多職種連携と地域医療の必要性を実感しました。南砺市民病院の研修医寮に高校生3人と大学生1人で自炊をして過ごした夜も楽しい思い出です！



内科外来の見学の様子

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

高校生がこんなに貴重な体験をすることができるプログラム他にないと思います。オススメです！たった5日間の短い期間ですが、真剣に自分の将来と患者さんに向き合いながら研修すれば、人生が変わると思います。私自身、参加して本当に良かったと思っています！医学に興味がある人はもちろん、本当に自分は医師になりたいのか、その覚悟があるのかを確かめたいという人も、ぜひ積極的に参加してみてください！

白神山地研修

1. 活動時期

: 2023.8/7～8/9

5年5組 玉富 史堂

2. 参加のきっかけ

年間行事予定表に記載のあるこの研修に2年前から興味を持っていたのですが、中学3年時はコロナ、高校1年時はそれに加えて豪雨による林道被害の影響で研修自体が中止に。最後の機会となる今年こそは世界遺産の森林に実際に行ってみて、現地で活動しているマタギの方々の話を聞いてみたい！という思いから参加しました。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

説明会の段階から「白神山地は水の森」「白神山地では、湧き水から川の水まで森の中で手に入る水はなんでも飲める」といったことを耳にしていたのですが、正直半信半疑でした。だから実際に森に入った時の驚きは相当でした。川の水はもちろん、岩肌をチョロチョロ流れる湧水まで全てが透き通った、自販機で売ってる天然水に引けを取らないクオリティ。疑っていた自分が少し恥ずかしくなるぐらいでした。他にも自然の力やその美しさを身に染みて感じる部分が多々あり、物事の価値観や考え方が変わるみたいな壮大な変化はありませんでしたが、都会の喧騒で汚れた心が浄化されました。(帰ってきてすぐ汚れましたが)

②活動中の面白かったポイント

・様々な生き物を間近で見られる

白神山地は水だけでなく生態系も豊かです。セミやトンボ、カエルやトカゲといった普段時々目にする生き物も然ることながら、イワナやサンショウウオ、ニホンザル等都会暮らしでは目にする事の出来ない生き物にも、運次第ですが出会うことができます。

・テンション上がりまくりの沢登り

今回の研修では2日目に、白神山地を流れる大川を遡行したのですが、これが結構テンションが上がる楽しいイベントです(個人の感想)。

先述のようなレア生物を見つけたり、川幅のあるところで泳いだり、深めのところで川に飛び込んだり…。もちろん、慣れない道を歩くのは相当疲れますが、そういう非日常的な出来事でテンションが上がると疲れも吹き飛びます(個人の感想)。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

この研修では朝夕の食事は自炊なのですが、調理や皿洗いといった仕事の分担や食材を残さず使い切ることなどの問題が発生することもあります。そういう観点から一緒に行く友達や部屋のメンバーを考えるのも大事かもしれないです。

Tokyo Oxford Programme of Summer (TOPS) 2023

1. 活動時期

2023.08.06～08.22

5年4組 永井 理央

2. 参加のきっかけ

私は幼い頃から日本のインターに通っており、帰国生として学校に入学しましたが、周りの友達のように自分もいつか海外に住んでみたい！という強い思いがありました。そこでイギリス留学を支援しているTazaki財団に応募し、最終的には語学研修生として選ばれ、オックスフォード大学とケンブリッジ大学で実際に教えている教授方からの授業を受けることができました。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

一番は、日本とイギリス教育との違いに気付けたことです。イギリスでは生徒一人と先生一人によるチュートリアルという授業が設けられそこでは困っていることや、最近あったことなどの何気ない話もでき、先生との距離を一気に縮めることのできる時間でもありました。現に私がイギリスに滞在したのは2週間ほどでしたが、授業を教わった先生とはとても親しくなることができました。また、チュートリアルのおかげでみんなが先生と仲を深め、授業アットホームな雰囲気の中で行いました。そのおかげか日本では質問するのが恥ずかしくてあまりしないのですが、数学の授業などではわからないことがあればすぐに手を挙げ、周りの人も同様に沢山の質問をしていたのも日本の授業風景とは違うなと思いました。

また、私はコンピューターサイエンスの授業も受けたのですが、通常の授業とは違い、4日間あったうちの1日は校外学習としてコンピューター博物館にみんなで行きました。そこでは、コンピューターができた当初のものから現代までのなど多くの種類のパソコンが展示されていました。別の歴史の授業をとっている生徒は、ロンドンまで電車で移動しての校外学習などもあったそうです。日本では校外学習はあまりなく、一つの授業でどこかに行くことはほぼありません。私もてっきりホワイトボードなどに授業スライドなどを映して行うのだと思っていたので、すごく驚きました。日本の授業スタイルにも多くの良さはありますが、他国の授業スタイルにも触れることができたことがこの活動を通じた一番のメリットに感じました。



(図1) イギリスでの授業風景

②活動中の面白かったポイント



(図2) パンテイングの景色

イギリスでは、観光以外にも周りの友達と一緒にパンテイングに参加しました。パンテイングとは10人ぐらいが乗れる細長い船をこぐ遊びのことで、お茶を飲みながら景色をゆったりと見ることができます。一番印象的だったのが、ケンブリッジ大学のコレッジの真ん中に流れている小川を通過することができたことです。普段はお目にかかれない大学を中から見るができたり、パンテイング中に大学内に馬を見つけたりすることができました。また、有名な数学橋という橋の下も通ることができたのでとても満足できる体験でした。

追記：自分でも船を漕ぐ体験ができたのですが、まっすぐ進むのがとても難しかったです、！ぜひイギリスに行った時にやってみてください！

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

何事にも興味を持ったものに関しては挑戦してみることです。海外に行くことは知らないことだらけで怖いことが多いかもしれませんが、必ずこのような経験は自分のためにはなりますし、新たな気付きへとつながりますので思い切ってぜひ皆さんもチャレンジしてみてください！

トビタテ留学JAPAN

～女子サッカーからジェンダー平等を学ぶ～

4年8組 林 葉音

1. 活動時期

:2023.8.5～8.27

2. 参加のきっかけ

学校でトビタテ留学JAPANの説明会があり、そこでトビタテに興味を持ちました。私の探究テーマが「女子サッカーからジェンダー平等について学ぶ」だったので、ジェンダー平等先進国かつ女子サッカーが盛んなドイツを留学先を選びました。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

ドイツはジェンダーギャップ指数ランキングが2023年は世界で6位とジェンダー平等が非常に進んでいる国なので、ドイツ国内ではジェンダー平等達成のために多くの取り組みを行っているとは以前は思っていました。しかし、実際に現地へ行ってみると平等であることが前提となっていて衝撃を受けました。

ドイツでは女子サッカー人口が日本で比べてメジャーなスポーツであることは予想していましたが、子供のクラブチームでも小さい頃から女子専用のチームが多く設けられていて競技人口の多さが実感されました。競技人口だけでなく競技観戦者の多さは現地に行きすぐ感じて、オーストラリア&ニュージーランド女子W杯を見ている人が多かったし、テレビではドイツではない国の試合も全試合中継されていて語学学校でもW杯について話題にのぼるほど女子サッカーにおける注目度の高さは感じました。

②活動中の面白かったポイント

調査をするために話しかけていると、ドイツ人は喋るのが好きな人が多いと感じました。質問に対して答えるだけでなく、そこから話を広げてくれるので話していて非常に楽しかったです。また同じ英語を話していてもドイツにはドイツの英語訛りがあって、語学学校でもフランス、トルコ、韓国など国によってそれぞれ違うアクセントの英語を話していて母国語の影響が垣間見えて面白かったです。

現地のサッカー事情を知るためにサッカー練習場に訪問した時には敷地への出入りはいつでも自由な上に選手の練習がない時間には一般人や子供への解放を行っていました。練習場にはサッカーグラウンドの他にラグビーコートやバスケットコートなど多種競技コートもあってラグビーをサッカーボールでやっている光景を見た時は新鮮に感じました。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

私自身がドイツ語が話せなく始めの方は上手くコミュニケーションがとれなかった上に、雨が續いていて外に出れなかったので正直帰りたと思うことがありました。けれども、時間が経つにつれて段々と会話ができるようになって、天気の良い日により市内散策に行けるようになって楽しくなりました。ホームシックになった時は、散歩をするのをおすすめします。その国の街並みや自然も実感できるし、楽しく興味深いです！

高校生模擬裁判選手権

4年4組 堀井咲来 6組 中澤彩貴 11組 王博文

1. 活動時期

: 2023.5.2～2023.8.15

2. 参加のきっかけ

: 社会科の先生の紹介で知った。法廷に行ってみて実際に裁判を体験することが楽しそうだと思い参加した。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

この大会に参加した事で、裁判の流れや重視される内容など法に関わる様々な事に詳しくなりました。また、実際に論告や弁論を組み立てていくにあたって、物事を相手に分かりやすく伝えるための論理立てや主義主張における関連性の必要性も学びました。ひとりの人間の運命を左右する裁判において罪のない人を法で裁く事がないように、考えられる可能性を様々な角度から網羅し尽くすことが重要だと身をもって実感する事が出来たと思います。

②活動中の面白かったポイント

私たちは県大会で東邦大附属東邦高校と戦った後、千葉県代表として関東大会に出場しました。関東大会では、各県の代表となった他校の生徒さん達と開会式や交流を持てたのが面白かったです。この大会は日本弁護士連合会主催で開催されており、実際に法廷で活躍する現役弁護士の方々による支援を受けられたり大会会場が弁護士会館や東京都の地方裁判所だったりしました。大会当日では法服に袖を通す機会などもあり、一生に一度と思える貴重な体験が沢山出来たところも魅力的でした。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

この大会は当日の対応力に加え、事前準備が鍵になります。しかし逆を言えば当日に向けてチームメイトと協力してしっかりと下準備を重ねれば自ずと良い結果が付いてきます。

大会当日は学年を気にせず積極的にコミュニケーションをとって時間の許す限り意見の擦り合わせを行うのが良いと思います。やりがいや達成感を十分に得られる大会です！是非取り組んでみて下さい！

シリコンバレーで夢を掴め！！

～Summer camp in San Francisco～

1. 活動時期

:2023.7.30～8.7

4年5組 北野 陽介

2. 参加のきっかけ

得意な訳ではないけれど、せっかく学んでいるので英語を活かして何かやりたいと思い、プログラミングに軽く興味を持っていたのでちょうどぴったりでした。日本人向けでもなく参加する人のうち大体が外国人というのも、外国に行っても甘えで日本語を話すことがない良い体験になると思いました。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加する前に現地の先生と2回ほどオンライン授業をした時には英語での説明についていけないところがあったり、現地では寮とホームステイだったので特に知らない外国人と同じ部屋で生活したりすることに不安や抵抗はありました。しかし実際に行ってみると、先生が自分にも分かるようにわかりやすく説明してくれたり気軽に質問に答えてくれました。本当に緊張するのは初日の1分ぐらいで、最初にバスケをしたりお互いの分からないところや思っていることを見ぶり手ぶりで伝えたりしている間に、いつの間にか仲良くなっていて最初の不安などがばかばかしくなってくるほどでした。

またオンオフがとてつついていて、休憩の時間にはとことん遊んで、課題を進める時にはとても集中しており研修が終わった時にはその事を意識できるようにもなりました。

②活動中の面白かったポイント

とにかく最初に思ったことは、みんながみんな体格から個性まで違うので見ていて飽きませんでした。PythonやJavaなどのプログラミング言語の習得からロボットや3Dプリンターまで、約18種類の中から選べられるので自分の得意だったり興味を持ってる分野が見つかりやすかったです。

午後にレクの時間があり、そんなに日本人が多いという訳でもないのに向こうでも千と千尋の神隠しを観て日本との繋がりを感しました。寮は朝昼晩全てバイキングで、とても美味しかったことが印象的でした。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

海外の人は全員が英語を喋れるのは思っていなく、片言で喋れただけでも英語上手いねって言われる程度なので、気軽な気持ちで参加してみてください！！

トビタテ！留学JAPAN新・日本代表プログラム ～アメリカ合衆国ロサンゼルス～

1. 活動時期

:2023.7/17～2023.8/5

4年5組 福田あこ



2. 参加のきっかけ

学校で実施されたトビタテ！留学JAPANの説明会に参加して興味を持ちました。自分の好きなことや特技をテーマにして留学ができる点や、奨学金をいただくことができる点に魅力を感じて応募をしました。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

留学の事前研修や事後研修では派遣生が全国から集まり、自分の将来に向けて努力している学生や、世界の問題の解決に積極的に取り組む学生の方と交流しました。さらに、留学中は世界中の同年代の学生と関わり、共同作業をするときに彼らが私に意見を思い切り主張してくれたことに驚きました。これにより自分の留学の目的や経験を将来にどのように繋げるかを考え、目的を持って留学に臨むことができました。トビタテ！留学JAPANに参加した経験を通して、自分の夢に向かって今から逆算して努力をできるようになりました。

②活動中の面白かったポイント

- ・アメリカでは日本よりも宗教が生活に密着していて、多くの人がキリスト教を重んじていました。当初は自分の留学先のカリフォルニアに世界の最新文化の中心地であるイメージをいただいていたが、現地の人はいくさんのエンタメに触れることよりもキリスト教を信仰することで心の豊かさを感じていて、日本人の自分との価値観の違いに驚きました。
- ・会話において、地域によって使われる言語が違うだけでなく、発声方法やコミュニケーションの仕組みも少しずつ異なっていることを実感しました。アメリカでは、日常会話でも腹式呼吸で相手の目を見て一対一で話しかけられるので、最初はすごく圧倒されました。
- ・このプログラムでは留学の事前研修や事後研修が実施され、留学の経験を大量のワークシートにまとめたり、発表したりする機会があります。帰国後に自分の留学に意味づけをして、留学をよりみのりあるものにすることが出来ました。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

トビタテ！留学JAPAN新・日本代表プログラムは自分の留学計画をまとめて応募し、採用されるまでにまとめる書類ややるがたくさんあります。しかし、書類を仕上げたりプレゼンテーションを作ったりすることで自分の中で留学の目標や計画を整理することができるので、万全の状態に留学に望むことができると思います。留学前や留学中に自信をなくしてしまうことがあるかも知れませんが、自分が今まで準備してきたことや自分の留学したい気持ちを自信に繋げて頑張ってください。



1. 活動時期

: 2023.2～2024.3

4年4組 竹内 理子

4年5組 印東 優 福田 あこ

2. 参加のきっかけ

: 学校に掲示されていた京都大学のポスターを見て、数学に興味がある女子3人で応募した。



3. COCOUNS-R マスフェスタとは

- ・COCOUNS-R: 京都大学の学生や院生にアドバイスをいただきながら、14カ月間理学探究活動を行う女子高生対象の事業
- ・マスフェスタ: 全国の数学を研究する中高生がポスター発表を行う、SSH研究開発事業

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

最初は、研究を始めると言っても当時は中3で右も左もわからない状態だったので、研究テーマを決めるのにも、自分たちが興味があり、かつ未解決のトピックを探ることが大変だった。テーマを決めて実際に研究に取りかかっても、なかなか上手くいかず何回も作業が頓挫したが、京大の方のアドバイスはいつも、その問題を考えるための新しい視点を私たちに与えてくれるので、とても参考になった。

②活動中の面白かったポイント

研究を進める中で、自分たちで新しい規則などを見つけたときに達成感を得た。COCOUNS-Rの中間発表では、自分たちの研究している分野以外の物理・化学・生物・地学に関する研究発表を聞いて、同じ女子高校生も多くのことに関心を持って研究を行っているということに刺激を受けた。

マスフェスタでは、全国の中高生が数学の中でも多岐にわたる分野の研究をしていて、自分たちが知らなかったテーマに対して考えるきっかけを得た。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 自分の興味がある単元については未解決問題などに関心を持つといいと思います。全国の生徒たちとの研究発表を通じた交流はとても良い刺激になります。研究で行き詰まることがあっても、諦めないで頑張ってください！

「使い捨て」カイロなんて もう言えない

1. 活動時期

: 2021.1/26～現在継続中

使い捨てカイロ回収

プロジェクト

2. 活動のきっかけ

: ゴミとして捨ててしまっていた、使用済みの使い捨てカイロが、水質を改善するキューブの材料となることをネットニュースで知りました。また、その使用済みカイロが不足しているため寄付を募っていることを知り、自分達でもできるのではないかと思います。仲間と共に学校全体での回収を始めました。

3. 活動した感想

①活動する前と後の変化

活動を始めた時は、リサイクルとして、世間に周知されていなかったもので、学校全体にこの活動を知ってもらい協力を仰ぐにはどうしたら良いのか悩みました。ポスターでの協力依頼、回収や寄付先への送付作業等、仲間の助けがあり、現在まで継続して活動が行えています。私1人では、4年間も活動を続けることができなかったと思いますが、仲間のみんなと協力することの大切さを日々感じています。

②活動中の面白かったポイント

夏休みに参加した「ボランティアアワード2023」で、他校のボランティアグループと交流する機会があり、活動内容は異なるが志が同じ人たちなので、それぞれの思いなどが聞け、とてもいい刺激を受けました。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

ボランティア活動は、一歩踏み出すのに勇気がいるかもしれません。自分が興味を持ったこと、この活動ができそうと思ったら、周りの人に相談し始めることから始めて欲しいと思います。また、自分が活動の主軸にならなくても、例えば回収BOXのなかに回収物を入れる行為がボランティア活動なのです。それがきっと誰かの役に立つはずです。

全日本高校模擬国連大会 本大会

2023年11月11日～12日 於 国際連合大学本部

市川高校 B チーム (担当国: Mauritania)

高校1年4組 稲葉 彩乃

今回の模擬国連では全国から予選会を通過した42組の高校生が集められ、「ロシアの侵略に起因するウクライナの人権状況」という議題で二日間人権理事会の中で議論をしました。私達はモーリタニアというアフリカ大陸の国の大使として、ロシアに支援されながらも、自国で人権問題をかかえるという難しい立場から議論に参加し、アフリカンユニオンとしてのスタンスを示すとともに国際社会の一員としてどう行動するべきか悩みました。やはり全日というだけあって非常にレベルの高い議論が繰り広げられていて話を進めることが難しかったのですが、そんな中でも小グループをまとめていく大使達の活躍により議場での決議案がまとまりました。みんなそれぞれの国益を守るために主張を通そうとすると同時に、他国との一致を目指そうとしていて非常に面白かったです。閉会式の講評で会議監督から、模擬国連は大使の追い求める「理想」と実際の世界の「現実」が混ざることが醍醐味であると言われました。確かに私たちはロシアとウクライナの人権問題を大胆に改善しようとする「理想」が足りなかったのだと思います。他にも反省すべき点は多いと思いますが、このようなレベルの高い場で経験を積めて本当によかったです。もちろん準備段階でのリサーチやペアとの相談もとてもよい勉強になりました。私は先生方やペアからのサポートによってこの活動に満足に専念し、たくさんのことを学びました。社会勉強にもなりますし、大使間での議論はみんな能動的に活動するので交渉スキルなども身につきます。もしみなさんも模擬国連に参加する機会があれば、ぜひ国際問題に取り組む国際社会の一員として、自国の国益を世界に反映させる大使として、理想的に現実的に議題に取り組んでみてください！

高校1年7組 遠藤 颯大

今回の模擬国連全国大会は私に多くの貴重な体験を経験させてくれました。もちろん国際連合大学で模擬国連をするというのは模擬国連をしている身の上、憧れだったのですが、それ以上に予選会含む大会準備のリサーチや配布資料の読み込みなど、なかなかこのような機会を与えられないと経験できないような大変な経験ができたことが今回の大会で一番の収穫と言えると思います。今回の大会は自分の知人の中で全国大会の経験がある人がなく、右も左も分からない中での出場でしたが、それを支えてくださったペアや先生の方々に心から感謝しています。



合同MOG 2023夏 in バリ島

～ まだ知らない新しい自分を見つけよう！ ～

1. 活動時期

事前トレーニング: 2023/6/17～8/15(12回)

現地ワーク: 2023/8/17～8/25

4年10組 清水 くるみ

2. 参加のきっかけ

MOGのことは学校の外部研修のお知らせで知りました。通常の語学研修とは違い、実際にその国の経営者が抱えている問題を一緒に解決するなど、実践的なことを学べるところにとても興味を持ち、また今回は関西の高校生との合同MOGだったので交友関係も広がると思い、初めての海外でしたが参加を決めました。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

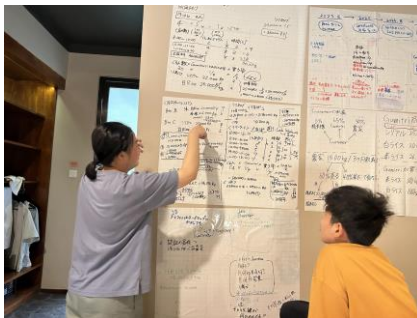
MOGには海外経験豊富な大学生メンターが数名参加していて、頼りになるメンターのおかげで海外経験のなかった私でも心おきなく参加できました。

オンラインで行われた事前トレーニングでは、プロジェクト遂行に必要なロジカルシンキングやカスタマー分析、マーケティングなどのスキルを学ぶことができました。事前トレーニング後には、ディスカッションの場で自信を持って発言できるようになりました。

現地ワークでは、企業班やロードマップ班として、現地の農家やレストラン等を実際に巡り、問題点や課題を見つけ、担当する企業の数年後のロードマップ作りに挑戦しました。大学生メンターとともに、時には深夜まで納得いくまで話し合ったり、資料作成を行うことで、問題を自分事ととらえ「私がやらなくちゃ！」という気持ちになりました。深夜に飲んだコーヒーの味は忘れられません。タイトルにもあるように、私はこの活動を通して新しい自分に気づくことができました。

②活動中の面白かったポイント

観光の時間も設けられていて、寺院やモンキーフォレスト等で仲間と楽しむことができました。また、現地ワークの際も現地の方との交流がとても楽しかったです。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

MOGはとても実践的で、語学研修では得られない経験が沢山できます。少し大変な場面もありますが、仲間やメンターと一緒に力を合わせ、今まで知らなかった新しい自分を発見できると思います。ぜひ参加してみてください！

広島テレビ×読売中高生新聞 平和教育取材(日本史ゼミ)

4年3組 松本 百々花

1. 活動時期

: 2023.4/9,15,16

2. 参加のきっかけ

: 中学3年生の時に、一年を通して歴史ゼミに参加していて戦争について(第二次世界大戦)学んでいたこと。また長崎での修学旅行時に被爆者の方の話を初めて聴き講話後に感謝と決意を述べていた事を先生が覚えて頂いたことで推薦してくれたこと。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

まずアメリカ人の方や外国の方が広島でピースガイドをされていることを知りとても驚きました。ガイドというと日本人の印象がどうしても強かったのですが、被害者という意識がどうしても強くなってしまふ日本人とは違う視点のガイドも重要だと感じました。グローバル化が進む社会ではこのような活動はとても重要になっていくのではないかと思います。また事前授業で、今まで漠然と考えていた核について議論しながらメンバーと考えることができました。

広島を初めて訪れてみて何時もテレビの中で見える光景を目の当たりにしてとても身近に戦争を感じることができました。原爆資料館で一人一人のストーリーに注目して原爆を考えることで他人事ではなく時代が少し違うだけで誰にでも起こりうる自分事だと強く感じました。また被爆者の方のお話を2:1で聴くことでとても濃く、お話を聞くことができたと思います。

②活動中の面白かったポイント

何時もお好み焼きを食べておいしいと感じることはあるが戦争後の様々な人々の工夫と知恵のおかげでその美味しさがあるということを知れました。原爆は辛い事実ですが暗さだけでなく復興への希望、人々の逞しさがそこにはあったことを改めて認識できました。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 同じ企画に参加することはもうできませんが歴史ゼミに参加したりや広島を訪れたりすることで、1人でも多くの人に戦争、原爆そして守るべき平和を考えてほしいです！

世界の果てまでトビタテ！ペルーで考古学を学ぶ

1. 活動時期

: 2023.7/8-7/28

4年8組 小野 一颯

2. 参加のきっかけ

: トビタテ留学JAPANという政府の留学プロジェクトを学校からの掲示で知り、その活動の一環として興味があった都市計画と考古学を学ぼうと思い興味を持ちました。中高生が行くことは少ない南米だからこそ学べる何かがあると思い、ペルーを選びました。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加する前は言語が通じるのか、これが本当にやりたいことなのか、様々なことで悩みました。南米という治安的にも安心できないところだからこそ感じる不安もありましたが、一方で未知のことに対する好奇心もありました。

結果的に参加しているときの楽しみが不安をすべて消してくれました。そのうえ、将来に通ずる面白い体験をできたので、行ってよかったし、これからも行きたいなと思いました。

②活動中の面白かったポイント

- ・日本では絶対にできない活動(ミイラの発掘、未発表情報をしれるなど)をすることができる
- ・世界の人々や、一緒に活動した留学生とのつながりができる
- ・いままでできなかった発掘活動が行えた

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 世界を見てみましょう。できる出来ないで決めるのではなく、好奇心でやるかやらないかを決めましょう。少しでも興味があったらトビタテに参加することをお勧めします。

トビタテ！ニューヨーク留学

-世界の障がい児教育を学ぶ-

1. 活動時期

: 2023.7/31～8/18

4年4組 三橋 祐太

2. 参加のきっかけ

: もともと留学自体に興味があったのと、障がいを持つ弟がいることで昔から障がい児教育に関心があったから

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

今回の留学を通して感じた中で、“挑戦することの大切さ”を一番に学びました。はじめ、語学学校のクラス分けテストで勤が冴えてしまったために、自分以外のクラスメートは全員英語がペラペラというような環境で授業を受けていました。なので、その中で発言を委縮してしまったり、うまく輪に入れなかったりといったことも多々ありました。しかしこのような環境で生活しているうちに、失敗を恐れず、とりあえず何か話してみようと思えるようになってからクラスに打ち解けられるようになりました。また、トビタテの探究活動の一環として行った街頭インタビューでは、断られることが多くありながらも、とにかく話しかけに行く中で、チャレンジする姿勢の大切さを感じました。こういったことの積み重ねにより、最終的には語学学校の卒業式で生徒代表スピーチに立候補し、200人を超える人々の前でスピーチをすることができました。

このような経験を通して、緊張したり不安になったりするのは何かにチャレンジする前までで、実際に挑戦をしてみると、やってよかった、という気持ちへ変化していく事を学びました。

②活動中の面白かったポイント

- 様々な国籍や宗教を持つ人へのインタビューを通して、これまで知らなかったような考え方や障がい児支援の形態などを知ることができました。
- 世界中から集まった人々と仲良くなったので、自分の価値観の広まりを感じるとともに異文化交流の楽しさを感じました。また、このようにして世界を知っていく中で”日本の再発見”もすることができました。
- トビタテの探究活動の中で、障がいを持った方とニューヨークの街を観光することがありました。この活動を通してニューヨークの人は障がいを持った人々に寛容で、かつ適切にサポートをしてくれる人が多いことに気づきました。しかし、このような姿勢には障がいを持った方に何かあった時、自分のせいだと言いがかりをつけられないように念のため配慮をしておこう、と言ったアメリカならではの思惑も多く隠れているようで、アメリカの個人主義や自衛の価値観などが反映されているのだと分かりました。また、ニューヨークの街ではクラクションの音が聞くことが多かったのですが、これはアメリカのドライバーの気性が荒いから、等といった理由ではなく、歩行者の信号無視の多さに起因しているのだと気づきました。こういった所からも自衛がアメリカでいかに大切かがわかりました。これらの経験を通して、アメリカでは非常に強い個人主義や自衛心があるが故にお互いを思い合うようになっており、またその考えがうまく噛み合って絶妙なバランスで社会が回っているのだなと肌で感じました。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 実際に留学をしようと考えたと、現地での生活や語学力など、様々な不安を抱えることになるかと思います。けれど、実際に留学から帰ってくると「行ってよかった」と思えるような、貴重で楽しかった経験になっているはず。絶対に後悔はしないと思うので、まずは一度、世界に飛び立ってみてください！

世界への挑戦！

The World Scholar's Cup - Tournament of Champions

1. 活動時期

: 2023.11/1-11/11

4年4組 玉村空大

2. 参加のきっかけ

: 中三で部活を引退したので、なにか課外活動をしたいと思っていたときに友達に誘われ参加しました。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

The World Scholar's Cup(WSC)はディベートや歴史、科学などの6科目についての知識など総合的な教養を競う大会です。世界各地で行われる地域大会、アジアなどより広い地域で行われるグローバル大会、そして一年の締めくくりとして行われるTournament of Champions(ToC)と、年間を通して三つの大会があります。そのため、準備期間も長くとても大変でした。

自分は2023年11月にToCに参加し、世界の壁の高さを肌で感じました。特にディベートでは、自分の英語力と世界レベルの英語力の差を痛感しました。今までは学校や日本の中という狭い視点でしか物事を見られていなかったことが、少し外を見てみればこんなにもレベルの高い人がたくさんいるのだと改めて認識することができました。

また、これからの社会ではそういった人と競わなければならない場面も増えてくると思い、より一層努力が必要だと感じました。

②活動中の面白かったポイント

競技のために研究をしなければならない分野が学校の勉強とはかなり違っていて、面白かったです。また、日本の他校から来たルームメートやもちろん、他の国から来た学生と交流する機会があり、新鮮でした。大会後にはハーバード大学やMITなどアメリカの歴史ある大学を回ったり、最終日にニューヨークのマンハッタン島を観光する時間があつたことも楽しかったです。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 準備しないといけないこと、勉強しないといけないことは確かに多いですが、得られるものも間違いなく多いので、友達を誘って参加してみることをおすすめします！堅くなく楽しい大会です！

Global Study Programの活動を通して

1. 活動時期

: 2023.8.7～8.11

4年9組 宇田川 愛

2. 参加のきっかけ

: 私は高入生で、この春に市川高校に入学したばかりで、内進生との関わりをもっと増やしてみたいと思い、先生の呼びかけもありGlobal Study Programに興味を持ちました。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加のきっかけは「多くの人と関わってみたい!」という軽い理由でしたが、実際は用意の段階では英語が本当に苦手な私はうまくコミュニケーションを取れないのではないかと不安な気持ちも大きかったです。上手くコミュニケーションを取れないあまり、みんなの足を引っ張ってしまうかもしれない、、、と前日の用意を毎回念入りにしていましたが、実際はそんなことはありませんでした。私がびっくりしたのは、活動の形態です。前を向いて一つのホワイトボードにみんなで目を向けるのではなく、外国人大学生の指導のもと、みんなで立ち上がって背中に貼った紙にお互いの印象を書き合ったり、グループ対抗で英語でディベート大会をしたり、絵画をみて自分が考えた物語をお互いに語り合ったり、簡単なブースを作ってポスターセッションをするなど、本当に日本語でやっても楽しそうな活動を英語でみんなで緊張せずに楽しむことができました。



②活動中の面白かったポイント

この活動は、全5日間、夏休みの期間中に行われます。私が一番面白いと感じたことは、日に日に活動が盛り上がりみんなが打ち解けあっていると感じられたところです。本当にアクティブな活動が多いため、すぐにみんなと仲良くなれる気がします(笑)

また、英語でコミュニケーションを取る上で一番大切なのは、「伝えようとする」とひとひしと感じました。日本語でも、たとえば「りんご」「美味しい」の2単語でも「りんごは美味しい」という意味が通じますよね。それと同じです。もちろん英語を学ぶ上では文法は大事ですが、私はこの活動を通じて、やっぱり言語だから「相手に伝えようとする気持ち」も同じくらい大切なのではないかと改めて感じられて面白かったです。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 緊張しないで友達の輪を広げにいく感覚で行ってみてください。英語でのコミュニケーションで新たな発見があるかもしれません。

トビタテ!留学JAPAN 新・日本代表プログラム ～ガーナで暮らした3週間～

1. 活動時期

2023.07.15～08.06

4年4組 宇津宮 奈々絵

2. 参加のきっかけ

: 中3冬、校内で開催されたトビタテの説明会でお話を伺い、興味を持ちました。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

物事に対して視野広く考えられるようになったと思います。参加前や活動当初は、「発展途上国の‘問題’を‘解決’するにはどうしたら良いのか」という問題意識を元に考えていたのですが、他のトビタテ生との交流や初めて1人で飛行機に乗って移動した道中、ガーナでの3週間の生活の中で、沢山の人や文化と出会い、「やっぱり日本の方がいいなあ」と思うこともあれば、「いいなあ、日本でもこうだったたらいいのに」と思うことも沢山あって、当たり前かもしれませんが、この世界は私が一生をかけても決して知ることは出来ないくらい広く、そこに「こうでないといけない」という絶対的な決まりのようなものはないのだ、と実感しました。それ以来、何事に対しても、否定や拒絶を示したり、同一化しようとしたりするのではなく、「それいいね!」と受け入れて、楽しめるようになってきたのではないかなと思います。

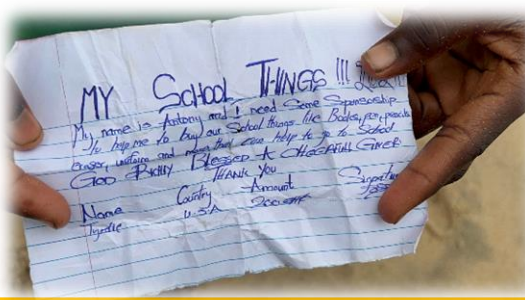
②活動中の面白かったポイント

【トビタテについて】

応募や事前研修において、自分は「どういう人間で」「何に興味があって」「何をしたい」のかを明確にする必要があり、それだけでも学びが深まったり、自信につながったと思います。

【ガーナでのボランティア活動について】

- ・水道の通っていない環境での生活や、学校に通えない子供達との出会いを通して、普段の生活環境の尊さを感じたとともに、沢山の人の助けをもらい、大変だからこそ人と人が協力し合うという暖かさにも触れることができました。
- ・「今を楽しむ」という、日本とは異なるけれど素敵な文化を知ることができました。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

『ガーナ? アフリカ? そんなの大変すぎる!』と思う方も沢山いらっしゃると思います。私もそう思っていたことがありました。ですが、今振り返ってみると、何も知らないのに勝手な先入観から最初から何もしないだなんて、勿体なさすぎます!

1歩を踏み出してみてください。その経験が、きっと未来の自信になるはずです。

自分を高める！ HPDU中高学生ディベート大会

1. 活動時期
: 2022.2/23

4年4組 稲葉彩乃

2. 参加のきっかけ
: 学校で告知されたこの大会に興味を持ち、チームで学内選考への準備を始めたこと。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

この活動で私が最も変わった点は、ディベートの経験値を得られたことだけではなく、行動力と積極性を身につけられたことだと思います。最初はディベートについて何も経験がなかったため、自分でも何をやってよいのか全くわかりませんでした。自分の力だけでは何もできないことを自覚したため、学校の先生に紹介していただき、OGの先輩に助けを求めたことを契機として、ディベートに対する知識を深めたり、国内外の優秀なディベーターがどのようなことに取り組んでいるのかをリサーチするなど、自発的に行動しようとするマインドセットが得られたと思います。

またディベートではスピーチでちゃんと伝えなければ審査員に評価してもらえないので、人に伝える力や積極性を学べたと思います。しっかり自分の持ち、時間を活用しようとする練習が積極性も身に着ける練習させてくれました。そこから次の大会への出場なども自分の中で決心できました。

②活動中の面白かったポイント

- ・ディベートで討論される議題が外国人の永住権などの一般的な社会問題から、宇宙人と結ぶ宇宙連盟などの想像上の話まで幅広く刺激的で、考えたことのないトピックを他の人と一緒に多角的に議論することが楽しかったです。
- ・ただ自分の立場の意見を押し切るのではなく、お互いの主張とその背景にある事柄を全員が聞いていて、本当の意味での深い議論をする時間がとても有意義に感じられました。
- ・どのようにしたら自分の論点に説得力を持たせられるかを考えることで、自分が日々聞くニュースや読む記事に対して批判的に考えることが増えました。あらゆる物事に対する考え方が変わったことを実感できました。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 初めてでも一度勇気を出して練習をすれば必ず楽しいことがわかると思うので、とりあえずやってみることがいいと思います！自分に自信をつけたい方や伝える力を鍛えたい方におすすめの課外活動です。



小・中学生ボランティアスクール

1. 活動時期

: 2023.7月24日から8月25日までのうち3日間

2. 参加のきっかけ

Classiで課外活動のまとめのコーナーにこのボランティアについて書かれていて、保育園のボランティアは聞いたことがなかったので、これもいい経験になると思い、応募しました。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

小さい子どもと接するのは弟が成長してからなかったので、小さい子とどう接していけばいいのかとても不安で、応募はしてみたけど本当に大丈夫かなと緊張していました。今回の1件目は保育園、2件目は親子で活動に参加できる普通の保育園とはちょっと違う施設に行きました。参加して私はこの二つの施設の子どもたちや保育士の方々、そして2件目ではその子供達の親御さんらと関わってみて、改めて保育士さんの凄さ、保育施設が親御さんをどれだけ助けているか身にしみてわかりました。育児で追われる忙しい母親達の負担を少し軽くすることができる。保育施設はずっとたくさんのお母さんを支えていたということに感銘を受けました。

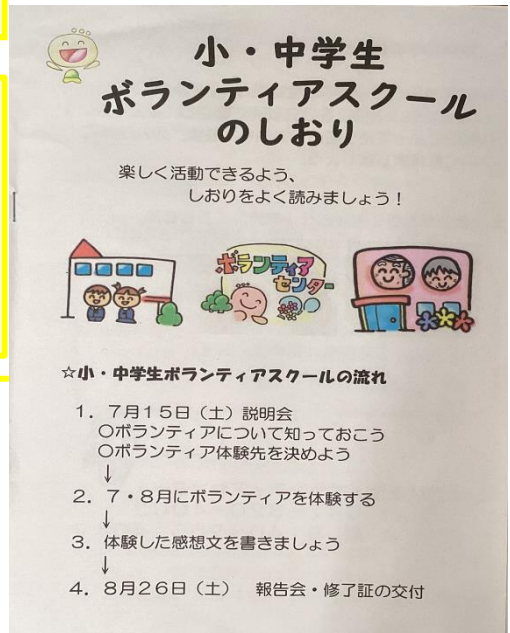
②活動中の面白かったポイント

1件目の保育園ではすぐに私と懐いてくれたのですが、2件目の施設では1件目の保育園と比べるとやっぱり子供達に入り込みにくかったです。それでも全員までは行かないけど、子供達と一緒に遊ぶことができ、本当に楽しかったし、嬉しかったです。どちらの施設でも私に嬉しそうな笑顔を見せてくれた時は、こっちも幸せな気持ちになってきて、やっぱり子供の笑顔って宝物なんだと思いました。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

どんな分野でもいいし、どんなきっかけでも何か行ってみたいとか面白そうとか思ったらとりあえず参加してみた方がいいと思います。自分の視野が広がりますよ！

3年1組 蔡 唯佳



飛び込め！世界最前線！ フィンランド Education Camp

1. 活動時期

: 2023.8/26～9/1

3年5組 藤本 温志

2. 参加のきっかけ

Tiger mov(タイガーモブ)が運営しているこの短期留学は元々学校の掲示板にも載っていて、過去にも友達が行っていたこともあり、興味を持ちました。その活動の中でも、

- ・とにかく海外の遠いところにぶっ飛ばされてみたい！
- ・北欧の教育を肌で感じてみたい！
- ・熱意があって気を回さずダイレクトに行動・議論できる人達と生活がしてみたい！

の3点に惹かれてこの「フィンランドEdu Camp」に参加しました。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

一番自分でも変化を感じ取れたことは、感情のコントロールです。参加前の日本では、何か辛いことやイラッとするのは溜めて時間に任せる、何かを訴えたくても恥ずかしくて「どうせ無意味でしょ」と流してその場をやり過ごすといった事が多かったのですが、フィンランドの国民性に触れたりメンバーと会話する事で、負の感情はそういうものだと思えて寛容に受け入れて、「じゃあどうしよう？」とすぐ切り替えできるようになりました。

口で「切り替えをする」と言うことは簡単ですが、実際の行動に移すハードルや切り替える時のストレスを乗り越えることができた点がこの成長の大きな部分だと思います。

②活動中の印象に残ったこと

二つ紹介します。

- ・フィンランドは日本と真逆な個人主義です。自由で他人に侵されない生活は夢のようですが、インタビューを通して、実際は冷たい人間関係、責任感がとても強いなど意外な点も分かりました。
- ・僕は短くて拙い英語しか話せませんでしたが、それでも気合いでコミュニケーションをとることができました。折り紙でくす玉を折ってプレゼントしたり、スーパーでトナカイの肉を買うときに必死に手でツノを作って店員に訴えたこともありました(笑)



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

この活動で成長や発見を得るにはまず「半歩」だけ辛い世界に入ってみましょう。未知の世界で必死にもがいてみる、でも抱え込みすぎるとパニックになるから適度に息抜きをすること。

このイベントのいいところの一つは「仲間と会う機会は一度きり」なところ。普段の自分のキャラは全部捨ててやりたい放題チャレンジできます。何事も思っていたよりハードルは低いものです、真っ正面から思う存分楽しみましょう。

キーワードは「リラックス」と「ストレート」！

大林組 夏のリコチャレ2023

1. 活動時期
: 2023.8.29

3年3組 島森芽依

2. 参加のきっかけ
: 企業の課外活動に興味があり、
親が勧めてくれたので参加した。



MAKE BEYOND
つくるを拓く
大林組

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加する前は、私自身建築業にそこまで興味があるわけではなかったの
で何となく行こうという感じがあり、大企業の雰囲気が分かったらいいなと
いう感じでした。

しかし実際に研究所で働く人が自分の極めている分野を好きなだけ研究
している姿を見て自分のイメージとは違い驚きました。研究が好きでやって
いる雰囲気が伝わってきて、仕事を楽しんでいるのがすごく伝わり、自分も
好きな分野を仕事にしたいという思いが強くなりました。また、やりたいこと
を突きつめる女性の姿を見れたのもいい経験になりました！

②活動中の面白かったポイント

見学のところどころで最先端の技術を体験できたことです。立体音響や地
震を建物内で感じにくくする技術、ロボットが3Dプログラミングで作った建
物など近未来の開発が大林組ではされていて興味深かったです。

また、研究所のオフィスが電熱費の節約やコミュニケーションしやすい動
線かできていたり、いろいろな設計の工夫を知れて面白かったです。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 自分の興味のと真ん中ではない活動も新しい経験や発見ができたり、
自分の興味のあることに繋がることもあるので、少しでも気になったら参加
してみてください！

トライアスロンをやってみよう ～競技人口という味方～

1. 活動時期
: 2023.7/30

3年3組 田辺 誠

2. 参加のきっかけ

毎年出場していたから。同じトライアスロンをしている父や姉の影響。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

トライアスロンとはスイム、ラン、バイクと三競技を連続して競う競技です。僕は小学校2年生からやっています。初めてすぐは、ビリから3位など結果は良いものとは言えませんでした。

では、なぜ僕がトライアスロンを勧めるのかというと、1番はその会場となるのが海や山などの自然に囲まれた場所で、常に自然と一体化しているような感覚になれます。最近では観光名所をコースにすることも多く、観光も一緒に楽しめます。そうして8年間続けたトライアスロンは、最近大会で入賞する機会が増えました。そしてありがたいことに今では、「ちばジュニア」という千葉県強化指定選手に選ばれることができました。



②活動中の面白かったポイント

今回参加した榛名湖リゾートトライアスロン大会は、結果は4位と入賞を果たすことはできなかったけれど、榛名湖周辺のリゾート地をコースにしているため会場にスワンボートが浮いていたりとか、馬車が車道を歩いていたりと、とても旅行気分を味わえました。

試合中はバイクコースのアップダウンが激しくて、特に下り坂はとこまでブレーキを我慢できるかのチキンレースになりました。(時速60kmでした)転んだら死ぬ覚悟で、下り坂なのにペダルを漕ぐ人や安全にブレーキをかける人などいろいろな人がいて面白かったです。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

挑戦したい気持ちと好奇心があれば誰でもできます。大会によって距離も異なるのでできるところから始めてみてください。

Camp Rising Sun

3年5組 辻巻 輝

1. 活動時期

:6/23～7/21

2. 参加のきっかけ

海外に行ってみたいと前から思っていて、先生から紹介されたから。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加前は、「海外」での生活や活動について漠然としたイメージしかありませんでしたが、一ヶ月間のキャンプ生活を経て、はっきりとしたイメージが思い浮かぶようになりました。また、参加する前にほとんど聞き取れなかった英語のニュースが、帰国後聞き取れるようになっていてとても驚きました。

②活動中の面白かったポイント

参加者全員がキャンプをより良くするための改善活動が毎日ありました。洗濯物を掛ける紐を作ったり、畑を耕したりとさまざまな活動が行われ、いろいろなアイデアが出て面白かったです。また週に1回あるVariety Show(お楽しみ会)では、楽器演奏やダンス、歌に曲芸とたくさんの出し物があってとても楽しかったです。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

英語の力がネイティブの人に近いレベルで要求されるので、リスニングとスピーキングを練習したほうがいいと思います。Variety Showで披露できるものを準備しておくとならにいいと思います。見ているよりも何倍も楽しめると思います。

高校生と大学生のための東大金曜特別講座

中学3年 男子生徒

1. 活動時期

: 2023.4/14～7/14(夏学期)

2. 参加のきっかけ

: 学年フロアに貼ってあるポスターを見て、自分の興味がある災害関係の講座があって面白そうだったので参加しました。



東京大学の安田講堂
(講座自体はオンラインです)

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

自分は全13講座のうち、『「不思議」なる災害認識——鴨長明『方丈記』を読む——』と、『「美しい赤外光」のもつ可能性:分子を観る・操る』と、『災禍を伝え継ぐ伝え継ぐ「場所」の地理学』の3つの講座を受けました。東大の先生方がそれぞれの研究内容を中高生にもわかりやすく講義してくださるので、よく知らなかった分野の知識を深めることができました。また、知らないことは正直にわからないと言う東大の先生方の見栄を張らない誠実な姿勢から、研究者として、人として理想な姿勢を学ぶことができました。

②活動中の面白かったポイント

教養学部が主催している講座なので理系・文系の偏りがなく、自分が今まで知らなかった分野の講座を気軽に受けられます。自分は方丈記を読み解く講座で作者の鴨長明を詳しく知り、文中の表現を掘り下げてみました。ちょっとした表現から作者の災害に対する見方がわかるというのがまるで謎解きのようで面白く、文学に興味を持つきっかけになりました。新しい分野と気軽に出会えるのが面白かったポイントです。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

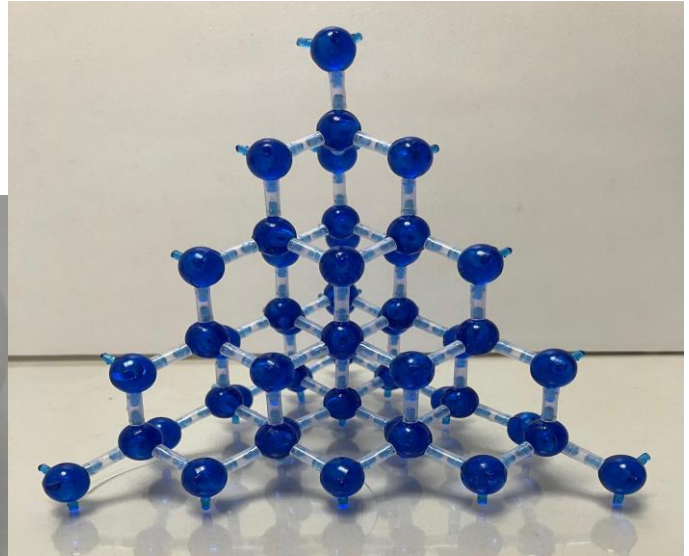
: 先生方の説明はとてもわかりやすくおもしろいので、東京大学の講座と身構えずに自分の興味がある講座をぜひ受けてみてください。

ひらめき☆ときめきサイエンス ～超高压の世界へようこそ～

1. 活動時期
: 2023.7.28

中学3年 女子生徒

2. 参加のきっかけ
: 学校のポスター



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

中学生が対象の課外活動の中で、少し興味とは外れていたけれどやるならこれかなあと思い参加してみました。結果的に楽しい経験ができたので、いろいろなことに挑戦するのも大切だと思いました。来年から高校生になり、対象の講座が今までより多くなるのでとても楽しみです！

②活動中の面白かったポイント

活動を通して、初めて経験することがたくさんありました。まず、事前学習としてダイヤモンドの分子模型セットが配られ、実際に組み立てました(右上の写真)。化学部に所属していて見たことも触ったこともあったけれど、作り方は知らなかったのでおもしろかったです。

講座では、学校には無い装置を使って水の三重点の様子を観察したり、ドライアイス を液体にしたりといった実験ができました。また、天然ダイヤモンドと人工ダイヤモンドについてのお話もあり、左上の写真にある3つのダイヤの中から天然のものを当てる、というクイズをしたのが印象に残っています。(このクイズ、全ての班が間違えました。)

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 少しでも興味のある活動を見つけたら応募するのがいいと思います！
他校の人ともお友達になる良い機会なのでぜひ！

吉田ゼミ ～戦時中の日記を読む～

1. 活動時期

: 2023.8/4～8/28

3年2組 松本 彩良

2. 参加のきっかけ

: 社会科の先生がこのゼミ紹介していたのを聞いて、戦争について深く調べたいと思ったのがきっかけ。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

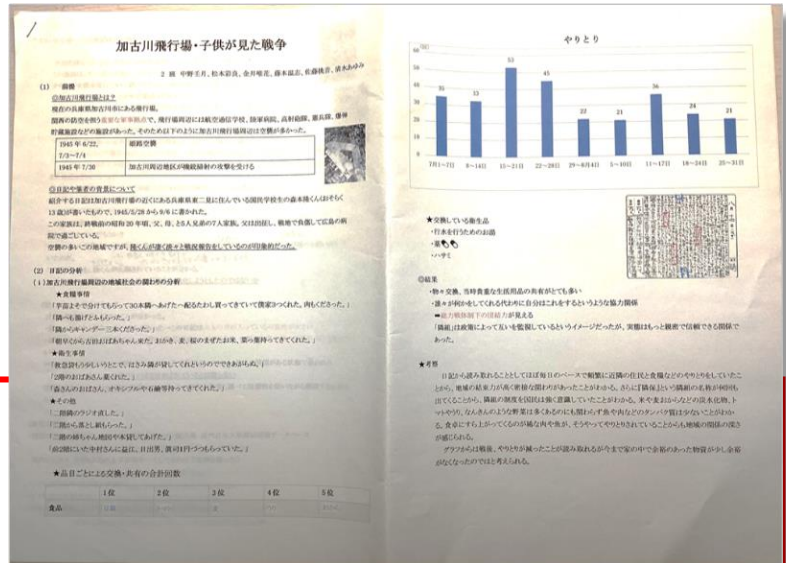
参加する前は、約一ヶ月間かけて日記を読み込み、分析しなければならぬこのゼミはが堅苦しいように思え、私には向いていないのではないかと不安に思っていました。しかしゼミを受けてみると、同じ班のみんなと活発に議論をし、深く考察を練っていく時間はとても充実していて、最後に参加者や先生方の前で発表したときは、一つのことをみんなと協力してやりきれたことに達成感を抱くことができました。また日記も、戦時中のリアルが映し出されていて、凄く調べがいのある題材で、楽しかったです！！

②活動中の面白かったポイント

- ・班の皆さんと意見をどんどんだし合うことで、どんどん形になっていくのが凄く楽しくて、やりがいがありました。
- ・他の班の発表が、自分たちと全く違う観点から切り込んでいくものばかりで、とても興味深かったです。
- ・発表の後、質疑応答の時間がもうけられるのですが、みんなバンバン質問していて、たくさん刺激を受けました。
- ・何より、調べきってレジュメが完成した時の達成感が凄いです！！

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 全然堅苦しくありません！！戦争に少しでも興味があれば、凄く楽しめると思います！！友達と受けられるので、ぜひ受けてみてください！！



東京弁護士会夏休みジュニア・ロースクール

1. 活動時期
: 2023.7.26

3年6組 小林 明日美

2. 参加のきっかけ

: 元々、模擬裁判には興味があり、その時に家族がいつもしている刑事裁判と違う、民事裁判の方を紹介してくれたため、どのようなことが違うのか気になったため、行きました。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

自分は、何回か刑事裁判の方の模擬裁判はやったことがあるのですが、民事裁判は初めてで、新しい考え方を学びました。やる前は「どちらもいつていることが正しい場合の権利の扱い方」というものをよく考えていなかったのですが、やってみたあとは、「もしその情報が出回ったときにどうすればいいのか？」というものを事前に考えることを特によくわかりました。しかもそれは、その時々の方勢によっていて、今のことだったらSNS、昔のことだったらその時活発だったものなど、様々な方法も考慮した上でやらなければいけなかったのも、そこを考えることも一つの醍醐味だと感じました。

②活動中の面白かったポイント

- ・自分の班は中学3年生で構成されていて、他の班は中学1年生から高校3年生まで色々な方がいました。そのせいか、最後のそれぞれの見解を発表するところで、注目しているところ自体がちがっていたことがとても興味深かったです。
- ・それぞれの班に1人ずつ、ついてくださった弁護士の方から直接権利の考え方について教えて下さったことが、自分の知らないことで、とても印象に残りました。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 模擬裁判と聞くと、堅苦しかったりする印象で、近寄りがたいかもしれないけれど、地図や証言などを聞いて、不自然なところを見つけたりするものもあり、ミステリーゲーム感覚でできるものもあるので、やってみたらいいと思います！ やって見たら、人と考え方や着目点の違いを感じて、夢中になっちゃうとおもいますよ！ よき模擬裁判ライフを！

ディスカバ！SDGs探求キャンプ ～5歳児にSDGsを伝える実践ワークショップ～

1. 活動時期

:2023.8/7～8/9

2. 参加のきっかけ

:Instagramで見つけて興味を持った

3. 参加した感想

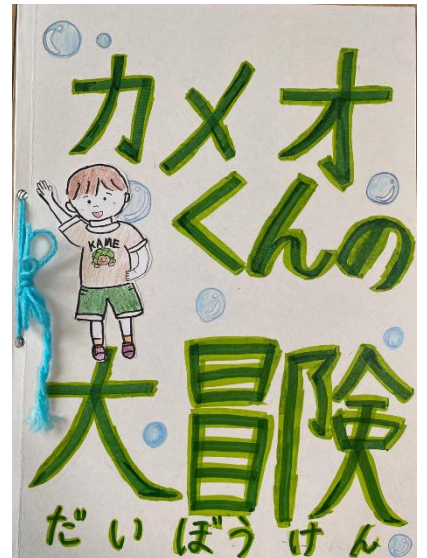
①参加する前と後の変化

最初は、夏休み部活引退して暇だから、他校の友達が欲しいからとなんとなくで参加しました。プログラムに参加していた人はみんな年上で青森や広島など遠くから来ている人も多く、他校他学年とのディスカッションはとても刺激的でした。チームメイトや大学生のメンターとの三日間の探求を経て、探求・プレゼンの仕方、グループワークの楽しさを学びました。このプログラムの後、他の探求やプロジェクトにも興味を持ち参加するようになりました。



②活動中の面白かったポイント

今回の探求のテーマは「5歳児にSDGsを教えるには何をしたらいいか」で私たちは音声ガイド付きの絵本を実際に手作りし、発表をしました。探求と言うと堅苦しそうなイメージですが、資料作りと並行して絵本制作をしたり、部屋では音楽が流れていて自由にお菓子が食べれたりとリラックスして学ぶことができたのに驚きましたがとても楽しかったです。桜美林大学の新宿キャンパスで行うので、普段オープンキャンパスなどに参加しない私にとって大学のキャンパスに入れたこともいい経験になりました。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

:ディスカバ！はSDGs以外にもたくさんのプログラムがあるので気になる物が見つかりやすいと思います。始める理由はなんでもいいので踏み出すことが大切です！会場が新大久保にあるので寄り道しやすいですよー。

Life is Tech! Summer Camp

3年8組 宮澤 沙來

1. 活動時期

: 2023.8/12～8/15

2. 参加のきっかけ

: 以前にこのキャンプに参加したことがある姉に勧められて興味を持ったから。



3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

私は学校の授業以外で一切プログラミングをやったことがなかったので、参加する前はすごい複雑で難しそうと勝手に思っていました。実際に参加してみるとメンターの人が1から説明してくれ、わからない事もすぐに教えてくれたため、初心者でもよく理解することができました。そしてなにより、開発する事は時間を忘れるほど楽しかったです。このキャンプに参加したことで、興味の幅を新たに広げることができました。

②活動中の面白かったポイント

- ・Web、アプリ、ゲーム、ミュージックなどさまざまなコースの中から自分のやりたいものを選んで開発ができる。
- ・グループで行う本格的な謎解きや青春動画を制作するなど、様々なアクティビティが用意されていて開発以外のことも楽しめる。
- ・授業では部分的にコードを打ち込むがこのキャンプでは1から開発できるため、自分だけのオリジナルのものをつくれる。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: プログラミングは基本を覚えればいろいろなデザインや機能がつくれるので初心者で難しそうと思うひともしやることがある人も少しでも興味があったら自分のレベルに合わせて学べるこのキャンプにぜひ参加してみてください！

オーストラリア留学

3年1組 岩谷 杏

1. 活動時期

: 2023.7.31 ~ 8.28

2. 参加のきっかけ

: 自然環境に興味があり、対策に力を入れている国を調べていたところオーストラリアを見つけ留学したいと思ったこと。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

海外へ一人で行くという初めての経験に期待したりオーストラリアの学校に馴染めるか不安だったりしました。始めの2、3日はなかなか友達が作れずうまくいかとても不安でしたが、学校生活終盤では仲の良い友達ができ、一緒に昼食を食べたり写真を撮ったりなど楽しく過ごせました。また、興味があったオーストラリアの環境対策を意識の高い人々と生活しながら学ぶことができました。

②活動中に面白かったポイント

私が1番印象に残っているには、バレーの大会に出たことです。バレーの大会様式や会場など日本とは違いすぎてすごく驚きました。また、バレーというスポーツを通じて言語が通じなくても協力し合えるということを学びました。

また、私のホストファミリーには孫がいて、一緒に夜映画を観たりみんなでキングスパークという有名な観光地を訪れるなど様々な場所に連れていってもらいました。家の近くにはゴミひとつない真っ青な海があり、そこで友達と遊んだのも思い出の一つです。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 留学という経験を今回初めてしました。始めは外国に一人で行くということにすごく不安がありましたが実際行ってみるとみんなせ親切で良い経験をたくさんできました！少しでも気になってることがあったら挑戦してみてください！

模擬国連【夏の会議（実践桐蔭会議）】

～初の経験での気づき～

1. 活動時期

: 2023.8/25～26

3年4組 スミス太誠 3年4組 野村泰生

3年8組 舟津希一

2. 参加のきっかけ

: Classiで掲示されていたので、友達とやろうとなった

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加する前は、「もともと三人のグループ全員で初めてだから楽しもう！」という形で進めていて、そういった軽い気持ちで挑みにいくと初手のアンモデで圧倒され、自分らの意思を周りに伝えることができていませんでした。2日目になると流れも掴んできて、グループで政策を提案したり交渉も助けもあってできるようになりましたが、経験者や堂々と挑む方にはまだまだ足りなかったです。様々なグループが積極的に取り組んでいて、自分たちはついていけなかったです。

この体験を経て、意欲が本当にある方々はレベルが違うと感じ、模擬国連でトップに立つ人たちは本当に自分の国の立場を考察し自らの意見を捨てて、大使として躍動して同グループの国々を引っ張って行ってました。全体を通して難しかったけれど、自分もこのように堂々とまとめて中心となり活躍してみたいと思いました。非常に自分たちにとって意味のある時間となりました。

②活動中の面白かったポイント

- ・自分らのグループのオピニオンを通すために勧誘していたり、無理やりどんな手段で使ってそれぞれの状況が優勢となるように試行錯誤していた。
- ・グループの人数が3人だったことを利用して、協力しあって話し合ったり別々の場所と担当に分かれて効率的に進めたところ
- ・議長が高校2年生でしっかりと話をまとめてられていて、落ち着いて会議を進めていた。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 最初は圧倒されたり何をすればいいのかわからないかもしれないけれど、まず一回は経験して気に入ったら続けて、苦手だったら別のことをやればいいと思う。周りの積極性に刺激を誰しも受けると思うので、チャレンジしてみる価値はある。ただし、準備はしておいた方がいい。国連とはそもそも各国で世界の平和を保つために協力するものだから、他国の大使と自分を比較したり勝ち負けという概念を持たなくていいと思う。

関東大震災 シンポジウム

3年1組 若松 駿

1. 活動時期

: 2023.7.30

2. 参加のきっかけ

: 受講している関東大震災ゼミで紹介があり、参加してみようと思ったから。防災に興味があったから。

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

僕は2023年7月30日に東京大学で開催された大正関東地震100年シンポジウムに参加しました。僕は前から災害などの対策に興味があり、普段から地震の発生の確認や、防災を推し進めていくにはどうしたらいいか、と考えていました。ただ、今まで詳しい話を聞いたり、そういう勉強をした事はなかったので、関東大震災ゼミに参加し、プレゼンや勉強をしていました。そこで、東京大学で関東大震災に関するシンポジウム（公開討論会）が開催されると聞き、1度参加してみたいと思いました。また、東京大学で開催されるということもあり、地震研究所も置かれている東京大学に興味がありました。しかし、ゼミのメンバーが多く集まっている1回目の講演には参加できず、一人で2回目の講演に参加しました。僕自身、講演のような場所に一人で行く事が初めてでしたし、参加している人は大人の方がかなり多かったので、少し緊張していました。ですが、話を聞いているうちに、自然とその緊張も解け、しっかりと話を聞く事が出来ました。そこでは、震災時の東京大学の現状や被害、またそこでの人々がとった行動、またその後の討論会では一人一人の色々な人が来たる首都直下地震に向け、小池都知事や都の消防の方、さらには東京大学の教授の方達による対策の仕方などの講演が行われました。そこでは自分の防災科学の視野も広がりました。また、こういう場に一人で参加したことも緊張しましたが、その分成長できたと思います。また、防災に関することだけでなく、シンポジウムや講義など、一人でも行けるようになったと思うので、これからの活動の大きな指針にもなったと思います。またこういう活動があったら、積極的に参加していきたいです。

②活動中の面白かったポイント

- ・東京大学に初めて行けた
- ・安田講堂がとても広くて、綺麗だった
- ・東大教授の講演を沢山聞く事ができた
- ・NHKのディレクターの方に白黒をカラー化した写真を見せてもらった
- ・小池都知事がいらっしゃった(SPも沢山いた)
- ・都の消防の方や、ニュースキャスターの方、東大の教授の方の討論会
- ・その中で、今のまま行くと大きな被害が出る可能性があることもわかった



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: 地震と決して無関係とはいかないこの国で、どういう対策をすべきなのか。講演を聞くことで、その方法も見えてくるかもしれません。参加しようか迷ってる方も、今後は是非参加して見て下さい！一緒に考えましょう！